

## 第6学年 組 道徳学習指導案

平成23年11月10日(木)第5校時  
 在籍児童数 29名  
 指導者 教諭  
 場 所 6年組教室

- 1 主題名 環境を守る 内容項目 3-(2) 自然愛・動植物愛護  
 関連 3-(3) 敬虔 4-(7) 郷土愛
- 2 資料名 人と自然が豊かな環境をつくりだす「山崎山」(出典 宮代町教育委員会作成資料)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は高学年の内容項目3-(2)「自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。」ことをねらいとしている。この項目の「自然愛・動植物愛護」は低学年の内容項目3-(2)「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。」から始まり、中学年内容項目3-(2)「自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。」を経て、高学年の内容項目につながってきている。そして更に中学校では3-(2)「自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。」へと発展していく。

人間の行いによって様々な環境破壊が問題となっている。今、これまでの行動を振り返り、環境を考えた生活をしていかなないと地球は滅びてしまうことになる。このことに人間が気付くことが必要である。そして、人間にはどうにもできない自然の力、驚異・偉大さをより深く感じ、自然と共存していく思いを持たせることが大切であると考え。

地球が減びると言われているが、実際に減びるのは人間である。人間も自然に生かされていることに気付き、身近な自然環境を守っていこうとする態度を育む時間にしていきたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、純粹で子どもらしい。生き物が好きという児童が多い。「環境を大切にしよう！」という取り組みが進められている宮代町に生まれ育った子どもたちは、小さい頃から自然と環境に対する意識が備わっている。昨年度は理科の学習でインゲン豆を育てた。曜日ごとに水やり担当を決め、業間休みに担当者はもちろん、担当でない児童までが少し離れた畑まで足を運び、インゲン豆の生長を喜ぶ姿があった。林間学校前には、白根山や志賀高原の環境についてそれぞれが詳しく調べ、自然のすばらしさを知り、自然に興味を持った。また、その自然が今、問題を抱えていることを知った。そして、林間学校では、「これからずっと自然を楽しませてもらうために！」という考えをもって行動してることができた。キッズISOの入門編にも挑戦し、自分の電気・ガス・水の使い方、ゴミの出し方を振り返り、環境によい生活をしていこうという思いをもつこともできた。

6年生になり、総合的な学習で「環境を考えよう！」をテーマに学習した。世界や日本で起こっている環境問題の原因や現状、対処方法を調べ環境問題について考えた。それにより、今、自分たちが生活を変えていかなないと地球はだめになるところまで来てしまっているという危機感を持った。そして、その学びを生かし、キッズISO初級編にも取り組んだ。エコリーダーとなり、家族にも環境を大切にすることを呼びかけ、実践してもらった機会をもつことができた。

児童に行った宮代町に対する意識調査は以下のようであった。(複数回答可)

宮代町のどんなところが好きですか？	それはなぜですか？
自然が多いところ 19人	・なぜか気持ちがよいから・落ち着くから ・空気がきれいだから・稲のにおいが好きだから
エコ生活を大事にしているところ 2人	・町がきれいになるから
施設・行事 4人	・他にない変わった建物がありうれしいから ・手軽に遊べる場所が多いから(総合運動公園など) ・みんなが明るくなり楽しくなるから
町の人々が優しいところ 8人	・知らない人同士でもあいさつし気持ちがよいから ・お年寄りが親切に見守ってくれ、ありがたいから ・地区別学習で地域の方々も勉強を教えて下さり嬉しいから

学級の大半が宮代町の自然が好きだと回答している。他の市町村と比べ自然がたくさん残っていて心地よいと感じている児童が多い。また、周りの方々の心の温かさを実感している児童が多く嬉しく思った。しかし、この自然はどのように守られてきているかについて分かっている児童は少なく、そのままの状態を保たれていると考えている児童がほとんどのように思える。手を加えないことが自然を守るのではなく、手を加えることで自然を守っているということを知らせたい。

身の回りの自然のすばらしさに目を向け、自然から得るものについて考えられる児童にしていく。そして自然環境を大切にしていこうことは、自分たちが生かされることにつながることを十分感じさせたい。緑豊かな宮代町で生活できるのは、この環境を大事に守ってきた方々がいたからであるということに気付かせ、自分たちも地域の環境を大切にしていこうという思いを持てるような時間にする。

(3) 資料について

主人公のぼくはトンボやドカゲ、クワガタなど生き物が大好きである。宮代町には緑のトラスト保全第五号地の「山崎山」があり、その薄暗い雑木林にはいろいろな生き物が生息していると期待を寄せ、ぼくはそこで活動する「子どもエコクラブ」のメンバーになった。しかし、エコクラブの活動は予想とは違い、生き物は持ち帰れず、下草刈りや間伐などもし、どうしてこんなことをしなくてはならないのかと不満に思うようになる。そんなとき、中学生がせみの羽化の話をしてくれたり、指導員の方が下草刈りをするわけについて話をしてくれたりした。その考えに納得し、ぼくはその後夜を観察会に参加したり、下草刈りを続けたりしていた。やっぱり生き物との出会いや四季と共に変化す

る植物の姿を見るときが一番わくわくして楽しいが、今は「山崎山」自体がぼくにとって「ビッグで大切な虫かごである」と考えられるようになった。

子どもエコクラブに入会しようと思った場面では、昼間でも暗い雑木林を見て、そこにたくさんの生き物が生息しているだろうという大きな期待を持っていることを実感させたい。その期待とは自分の好きな生き物に自由に触れられ、自由に持って帰れて、好きなように生き物と触れ合えるということをしつかり押さえる。これは子どもなら誰もが普通に持つ欲求である。子どもの正直な思いである。実際にエコクラブで活動し始めた場面では、エコクラブでの活動が自分の思ったこととは違っていたことへの不満に共感させる。中学生の話や指導員の方の話を聞く場面では、セミが自分を守るためにしている工夫に触れ、命を懸命に守ろうとするセミに対しての自分の行動を振り返れるようにする。また、指導員の方の話から、様々な生き物の命をはぐくんでいくために人間は何をしていくべきかということに気付かせる。生き物と人間のつながりについて知り、考えさせられたことを取りあげ、本当の「自然愛・動植物愛護」についての考えを深めさせたい。「自然を守る」というのが今まで考えていたことと違っていただけに気付かせたい。最後の「山崎山はとてつビッグで大切な虫かご」という言葉から、動植物をむやみに採って自分が楽しむのではなく、自然そのものの中でそれらを大切にしているという気持ちに変わったことに気付かせたい。山崎山自体を虫かごにするということは山崎山を生き物が住みやすい状態に手入れし、その中で生き物との触れ合いを大事にしていくというぼくの心のメッセージであるととらえさせたい。

#### 4 研修主題とのかかわりと他の教育活動等との関連

##### 研修主題

生きる力をはぐくむ小中一貫教育

人とのかかわりを大切にし、共によりよく生きようとする子どもの育成

(道徳教育を通して)

##### (1) 研修主題とのかかわり

本時では「自然愛・動植物愛護」をはぐくんでいく観点で、生き物のことを良く知りエコクラブに参加している中学生の姿から本当の自然愛・動植物愛護を学ばせる。また、長い年月里山を守ることを呼びかけ、教えてきた指導員さんたちの気持ちに触れ、宮代町の方々のすばらしさを感じさせる。そのために、話し合いの場面では児童同士で多様な考えを出し合い「～さんと同じで」や「～さんと違って」という言葉を使い意見を分類・整理・類型化し深めていく。互いの考えを知ることによって共感したり、異なる考え方に気付いたりしながら共に学び、よりよく生きていこうとする姿勢をもたせたい。

また、終末では山崎山で子どもエコクラブを開催している八木橋教諭にゲストティーチャーとして参加していただき、エコクラブの活動のねらいや活動の様子について話していただくことで自然を守っていかうとする思いを深められるようにする。

##### (2) 他の教育活動との関連

(5年)

##### ○田植え・稲刈り(特別活動)

・田植え・稲刈り体験から作業の大変さや先人の作業の知恵のすばらしさを感じ、主食としていただいているお米にかかわる人々に感謝の気持ちを持つと同時に、稲作のすばらしさを感じる。

##### ○キッズ ISO 入門編(総合的な学習)

・自分の生活を振り返り、環境によくない生活をしていたら改めようという思いをもち、工夫して生活するようにする。

##### ○林間学校(学校行事)

・自然のすばらしさ・驚異・不思議を体感し、自然を楽しむと共に、この自然を守り、大事にしていこうという気持ちを高める。

(6年 1学期)

##### ○「環境を考えよう」(総合的な学習)

・環境問題を知り、その原因や対処方法を調べ、生活の中で実践していく気持ちをもつ。

##### ○宮代「江戸の日」(地域での取り組み)

・昔の人々の知恵を実践しながら、地球に優しい生活をする。西洋アサガオを育て緑のカーテン作りをする。

##### ○キッズ ISO 初級編(総合的な学習)

・自分だけでなくリーダーとなって環境に優しい生活をしていくことを呼びかけ、課題を改善させながら生活していく力を身につけさせる。

##### ○修学旅行(学校行事)

・わらじ作りを通して、植物が人間の生活を支えて来てくれたことを実感する。鎌倉・箱根の自然にふれ、日本の四季のすばらしさを楽しむ。

##### 道徳の時間

(6月)

資料名

「愛華さんからの

メッセージ」

・自然の偉大さと人間との関わりを知り、自然環境を大切にしようとする態度を養う。

(11月)

資料名

「人と自然が豊かな環境をつくりだす『山崎山』」

・自然のすばらしさや自然との共存の大切さを知り、身近な自然環境を守ろうとする心情を育てる。

(12月 道徳)

○「心のノート」を活用して

・「心のノート」P-68～71を読み、自然と共に生きている自分を自覚し、美しい自然をそのまま残していくためにすべきことについて考えを深める。

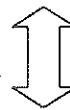
(3学期)

○人と環境(理科)

・人の生活が空気や水、動物や植物などどのようなかかわり合っているかを調べ、自然と共に生きていく考えを深める。

○一人一鉢運動

・パンジーを大切に育て、生き物の命を大切にすることを育む。



##### 家庭との連携

学級通信や懇談会を通して児童の動植物愛護の取り組みや自然を大事にした行動・他教科での発言等について知らせる。家庭でも心の成長を励ましていただき、児童の活動意欲を高めていただく。

5 本時のねらい  
自然のすばらしさや自然との共存の大切さを知り、身近な自然環境を守ろうとする心情を育てる。

6 学習指導過程

	学習活動 ◎主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆◇評価【評価方法】	時間 資料
導入	1 ビデオを観せる。 ◎「さあ、どこに行くので しょう。」	・森の中に行くのかな？ ・どきどきする。 ・きつと山奥だよ。 ・トトロの森かな。	・ぼくのワクワクするような 気持ちを共感させる。	5分
とらえ	2 資料について条件・情 況を知り、教師の範読を 聞く。  3 心に残ったところを発 表する。	登場人物：主人公：ぼく 中学生・指導員の方 条件・状況： 主人公のぼくはトンボやトカゲなど生き物が大好きであ る。宮代町には緑のトラスト保全第五号地の「山崎山」があ り、そこにはいろいろな生き物が生息していると期待を寄 せ、ぼくはそこで活動する「子どもエコクラブ」のメンバ ーになった。・・・  ・エコクラブに入りたいと思 ったところ ・エコクラブに入ったら思っ ていた活動と違っていたと ころ ・中学生や指導者の方々の話 を聞いて心が動いたところ	・1度の範読で深く心に響かせ るよう、状況把握をしっかり 行う。 ・児童の受け止め方をつかん で話し合いの柱を整理す る。	10分
展  開  め  る	4 ぼくの気持ちになって 話し合う。 (1)「子どもエコクラブ」 メンバー募集の看板を見 て入会しようと思ったと き、ぼくの思いはどうだ ったでしょう。  (2) エコクラブに入り、 活動し始めたときのぼく の気持ちはどのようにな ったでしょうか。  (3) 中学生や指導者の方 の話を聞いたとき、ぼく はどんな思いをもったで しょうか。	・どんな活動をするのだろうか。 ・これであの林に入れるぞ。 ・きつとたくさんの生き物が 見られるだろうな。 ・クワガタが欲しいな。たく さん見つけて持って帰って こよう。 ・めずらしい昆虫がたくさん 採れるに違いない。 ・トカゲだって虫かごいっば いに採れるぞ。 ・友だちみんながうらやまし がるだろうな。 ・生き物ともっと遊べると思 ったのに。 ・持って帰ってはいけないな んて。 ・なんで下草刈りや間伐をや らなくてはいけないの。 ・自然は人間の手が入らない 方が自然だ。 ・こんなことをしてしまった ら生き物が来なくなる。 ・やめたくなくなってしまった。 ・ぼくはこんなことをやるた めにエコクラブに入ったの ではない。 ・やると決めたからやらない といけない。でも嫌になっ てきた。 ・アブラゼミの羽化は見たこ とがなかった。 ・7年も土の中にいて7日し か生きられないなんて。 ・天敵から自分を守る工夫を しているんだな。 ・生き物は手の加えられてい ない林の中で生きていると 思っていた。 ・人が豊かな恵みを生き物に 与えていたなんて知らなか	・大好きな生き物がいっばい の雑木林の中を想像して期 待が膨らんでいること、そ の中で自分の好きなように 生き物と遊び、帰って帰っ てくる楽しみでいっばいに なっているぼくの気持ちに 十分浸れるようにする。  ・自分の楽しみにしていた活 動とは違い、下草刈りや間 伐など、生き物とは関係が ないと思える活動ばかりで 嫌になるぼくの気持ちに共 感させる。 ・ここではまだ自然に人間の 手が加わることはよくない ことであると思っている児 童の気持ちを大事に取り上 げる。この活動が生き物の 住処を守る活動になってい ることにぼくは気付いてい ない。  ・「生き物が好き」というだけ で、全く生き物のことは知 らなかつた自分に気付ける ようにする。 ・自分の今までしていたこと は、自分の楽しみだけを追 い、大好きな生き物のこと を考えてあげていなかった ことに気付かせる。 ・豊かな環境を守っていくた めには人が手を加えていか	20分

展 開	深 め る	<p>⑤ 「山崎山」を「とてもビッグで大切な虫かご」と思うようになったのはどうしてでしょう。</p>	<p>った。 ・ぼくは大好きな生き物のためになる活動をしていたんだな。 ・豊かな環境は自分達人間が作っていかなければいけないんだ。 ・これからここで自然を観察し続けたい。 ・山崎山全体を大好きな自然として大事にしていこうという思いが変わったから。 ・山崎山全体を自分の大切なものと考えようになり、宮代町の自然を守っていこうと思えるようになったから。</p>	<p>ないといけないということがわかり、これまで行ってきた活動と結びつくようにする。 ・山崎山の生き物とのふさわしい触れ合い方、豊かな自然を守るためには人間の手が必要であることなどに気づき、考えが変わったぼく的心情に気付かせる。  ☆大好きな生き物と触れ合い続けるために、山崎山を守っていく活動が大事だと思っただ主人公に共感することができたか。【観察・発表】</p>	
	見 つ め る	<p>5 山崎山や身近な自然について思うことを書く。</p>	<p>・まだ行ったことがないので行ってみたい。そして少し草をとってこようかな。 ・入り口からわくわくする素敵な状態を残したい。そのためにできることを考えたい。 ・宮代町は自然がたくさんある。生き物もたくさんいる。この自然を守ってきてくれた人に感謝し、自分達も守っていききたい。</p>	<p>・身近な山崎山に興味をもつことで、その自然の豊かさや喜びを与えてくれるすばらしさを実感し、大切に行動をとっていったらよいか考え、行動の意欲につながる。</p>	5分
	終 末	あ た た め る	<p>6 ゲストティーチャーの話聞く。 山崎山のビデオ視聴。</p>	<p>・八木橋先生のお話を伺う。 ・山崎山の中の様子を観て、更に素敵な場所であることを実感する。 ・わくわく・ドキドキ感からこのように自然と触れ合えることに喜びを感じ、大切にしていきたいという気持ちを高めさせる。</p>	<p>◇山崎山のビデオを観ながらゲストティーチャーの話聞かせることで自然のすばらしさを感じさせ、自然愛・動植物愛護の気持ちを更に高めさせることができたか。  【観察】</p>

6 評価の観点 (児童サイド)

☆大好きな生き物と触れ合い続けるために、山崎山を守っていく活動が大事だと思っただ主人公に共感することができたか。

(教師サイド)

◇山崎山のビデオを観ながらゲストティーチャーの話聞かせることで自然のすばらしさを感じさせ、自然愛・動植物愛護の気持ちを更に高めさせることができたか。

7 板書計画

